

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073500318		
法人名	社会福祉法人 慈愛会		
事業所名	グループホーム富の里		
所在地	福岡県糸島市富508-4 (電話) 092-324-9333		
自己評価作成日	平成23年9月12日	評価結果確定日	平成23年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者のADL低下・認知症の進行が顕著である現状である。その中で、利用者一人ひとりの個性を重視した日常生活を送って頂けるように努めている。また、歌を唱う機会を設けるなど利用者同士の交流や活動に努めている。
職員個々においても、認知症の人の理解を深めようと研修参加や自己研鑽に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成23年10月6日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

老人介護福祉施設の他、多くの介護サービス事業所を持つ法人内の事業所である。法人の理念を基に事業所の特性を活かし、人材育成や身体拘束廃止等に力を入れており、委員会を設けてサービスの質の向上に活かしている。利用者の状態に応じたサービスの提供を心がけ、「今日出来ることは今日実践する」よう努めている。利用者にとって居心地がいい事業所づくりを目指しており、又、地域との交流が深められるような工夫をしている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH独自の理念は作られていないが、理念に基づく運営方針があり、事業計画に部門目標として、地域との関わりを大切にして行く事を掲げて取り組んでいる。	法人の基本理念があり、事業所独自の理念はない。しかし、毎年度事業所の目標を挙げ、その具体的な実践計画を立てている。地域との交流も目標及び実践計画が立てられており、職員全員でその実現に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は地域の集まりに出席する等の交流を図っている。また、施設が催す祭り等に地域の方に参加を呼びかけ、出向いていただいている。	町内会に加入し、地域清掃活動や夏祭り、敬老会に参加している。法人全体の夏祭りが地域交流の機会になっており、住民や家族等に呼びかけ、住民の参加がある。また、事業所主催の敬老会や催し時に地域子ども会と交流を行ったり、防火訓練日程をチラシにして地域住民へ配布し、参加を呼びかける等している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の季節行事に子ども会に参加していただき、認知症の人たちとの交流の中で、認知症の理解を深めるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・地域包括支援センター職員の出席もあり、その中で現状や事業計画での取り組み等を報告。頂いた意見は、GH会議で職員へ報告して、日々のケアに活かせるような取り組みをしている。	運営推進会議を定期的に開催し、事業所から利用者やサービスの状況・今後の活動計画を報告している。委員から地域の保育所との交流方法についてや内部研修のあり方等の意見が出され、運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席があり、会議の中で頂いた意見は日々のケアに生かしている。	日常的に行政との情報交換を行うなど、行政との協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に、身体拘束の基本的行為を理解したうえで、身体拘束に係わるアンケートを職員より収集し、マニュアルの改訂を行い、身体拘束をしないケアに努めている。	法人内に身体拘束委員会があり、常に拘束について学ぶ機会がある。事業所でも職員全員から拘束についてのアンケートなどを記入してもらい、それを踏まえて内部研修を実施している。玄関・居室ともに施錠はしていない。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、GH会議の中で資料などで再確認を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度については会議の中で、制度の説明は受けているが、活用できるような支援には至っていない。	制度に関しては、入居契約時に利用者及び家族等に説明している。内部研修で制度について学ぶ機会があり、又、制度を利用された方を通して理解を深めることが出来ている。テキスト・研修記録がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は重要事項説明を家族へ行い、不明な点の確認や不安を尋ねる様にしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、入居者も参加され入居者の意見を頂けるように工夫しているが、運営に反映出来るような意見や苦情は出ていない。	利用者・家族代表者が運営推進会議に参加して意見を述べる機会がある。また、敬老会や誕生会等に家族へ参加の声かけを行っており、来訪時や夏祭り等に家族からの要望や意見等聞くように努めている。行事日程の連絡等家族から出た要望を運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議の中で、意見を出せるような課題の提示の工夫をしている。	管理者は、職員から事前に意見を聴取してミーティングを行うようにしている。また、6カ月に1回、各職員に自己目標を掲げてもらっている。居室や誕生会企画に担当制を設ける等職員の意見や提案を運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の活用により、職員の勤務状況や仕事に対する目標を把握し、各職員の意識向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員採用に関しては、募集時点から性別や年齢などを理由に採用対象から排除していない。また、職員についても公休希望を聞くなどを行い、社会参加や自己実現が出来るよう配慮している。</p>	<p>法人代表者及び管理者は、採用対象者に制約を設けていない。半年に一回人事考課を行い、各職員が目標を設定するように促し、職員が能力を発揮できるように配慮している。資格取得や外部研修参加等を希望する職員に対しては、勤務を考慮する等、職員が自己実現できるように支援している。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権について振り返りを行うために、GH会議の中で資料にて確認を行っている。</p>	<p>職員は人権教育に関する内部研修を受けている。また、法人の基本理念の中に人権について謳っており、毎朝全職員で唱和しながら、人権について確認をしている。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体での新任研修・フォローアップ研修と、職員の段階に合わせて内部・外部の研修を実施している。また、資格取得の支援もしている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着部会を活用して、他施設見学や部会が主催する研修に参加し、交流の機会やサービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問、面接を実施。本人・家族・ケアマネージャーからの話を聴く機会を作って、本人との関係づくりに努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には施設見学をして頂き、施設での生活を送るうえで心配な事、意向を尋ねながら関係づくりに努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点でGHが満床であれば、ケアプランセンター等に相談する事を勧める場合もある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な範囲で職員は入居者と一緒に作業などを行う。その中で、しきたりや郷土料理などを習い、楽しむ事が出来る関係づくりに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告や電話などで入居者の状態を共有している。入居者に変化があれば家族の来園を依頼して入居者の精神的な支援をして頂いている。また、行事参加を呼びかけ、同じ時間を楽しく過ごして頂ける工夫をしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居前の施設への訪問を支援しており、本人の馴染みの人との関係の継続に努めている。また、かかり付けの歯科受診などの支援を行っている。	利用者の馴染みの人や場について本人・家族から聴取して把握している。利用者が以前入居していた施設へ訪問したり、知人や友人への手紙を書くことを支援する等、これまでのつながりを継続できるように努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の馴染みの関係の把握を行い、居心地の良い環境作りに努めている。また、孤立している入居者に対しては、職員が介入をして他入居者との会話や活動を促している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業者に住み替えを行った入居者に対しては、本人の状況や生活歴、週刊等の情報提供に努めている。サービスを終了する際は、他サービスに繋げる支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との生活の中で、本人の思いが表現できるような会話を多く持つことや、ケース記録で情報を共有して意向の把握に努めている。	職員は毎日の関わりの中で、利用者の思いや要望に耳を傾け、その把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には家族から情報を得て、利用者本位の支援を検討している。意向は介護計画や行事に反映させ、職員間の情報の共有に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に、これまでの生活歴や習慣・嗜好を会話の中で把握している。また、センター方式やひもときシートを活用して家族や近親者より情報を得て、これまでの暮らしの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方はケース記録として残すように努めている。また、状態チェック表を記入することで心身の状態把握を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族へは介護に関する希望や要望を尋ねて反映している。また、全職員からの意見を反映するために、事前に意見収集が出来る様に意見収集表を設置している。更に、GH会議でミニカンファレンスを設定している。	利用者・家族の思いを聞き取り、担当者会議で意見交換をし、一人ひとりのその時点に沿った個別具体的な介護計画を作成している。6ヶ月毎、または、状態変化や状況に応じて随時の見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には、日中・夜間と毎日記録を行っており、日々の変化を情報共有している。その中での変化に対応できるよう、介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHだけではなく、併設施設のデイサービスを利用して社会性を維持できるようにカラオケ教室に参加するなどの支援に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	火災時の訓練の際に参加してもらったり、フラワーアレンジメントやカラオケのボランティアとの活動を楽しんでいる。民生委員にも来園して頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門医が常駐するため、入所時等に説明しながらかかりつけ医としている。	利用開始時に利用者・家族と話し合い、今までのかかりつけ医や希望する医療機関による受診を支援している。市内の病院受診は職員が対応し、また、市外の病院付き添いは原則家族に対応してもらおうが、難しい場合は柔軟に対応している。情報の伝達は随時電話で行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と協力しながら日常的に健康管理を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院者には定期的に面会に行き、情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、富の里重度化対応、看取りに関する指針を家族へ手渡し、説明を行っている。また、重度化した利用者の今後の対応をご家族、看護師、GH職員で話し合う場を設けている。	重度化や終末期のあり方について事業所の対応方針がある。利用開始時に事業所が対応し得る支援について家族等に説明し、家族の今後の考え方を聞き、主治医の意見を参考にしながら方針を決めている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練している。救急法も研修があり、事故防止につながっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いの訓練は地域の方に知らせて見学を呼び掛けている。地域住民の協力が得られるように話し合いはしているが、訓練までは出来ていない。	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て避難訓練・消火器の使い方等の訓練を定期的に行っている。地域住民にチラシを配布し、参加を呼びかける工夫があるが、参加には至っていない。非常用備品・食料・飲料水は、併設施設に準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人に分かりやすい言葉かけや、接遇の取り組みとして部署でのチェックをしている。	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉かけや対応に配慮している。個人情報の取り扱いや守秘義務・利用者を尊重した対応について、外部・内部研修で学ぶ機会を設けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何時でも希望に沿うように意欲を引き出すように選択できるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員で流れを決めている事が多い。体調の悪い方を中心に健康維持できるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には馴染みの美容室に行っていただいている。また、入浴時にカラーリングを行っている利用者もいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けは一緒に行っている。食事も職員と一緒にしている。	食事の準備は利用者と共にしている。献立は管理栄養士が立てるが、夕食の副食1品やおやつは、利用者の希望を聴いて一緒に作り、創意工夫を凝らし、声かけや対応に配慮しながら、皆で食事を楽しむことができるように支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好品の把握をしている。好みの飲み物を準備し摂取量を増やしている。食事は嚥下、咀嚼状態に合わせて検討・提供している。水分については、とろみをつけたり、ゼリーにしたりして提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいを実施している。会議の時など口腔ケアについての重要性に触れている。本人の状態に合わせて行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの方もポータブルトイレを使用するなどして可能な限りおむつやパットでない排泄を支援している。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれのサインを見逃さず、さりげなく支援を行っている。おむつが必要な利用者に対しても可能な限りポータブルトイレへ誘導する等、自立に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、人によっては歩くように支援している。また、体を動かすように働きかけている。ヨーグルト、ヤクルトを提供している。お腹が張ったりしていればマッサージしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	希望通りの入浴していただいている。夜間入浴は行っていないが、必要時は工夫している。	利用者の希望等にあわせ入浴支援をしている。入浴を拒否される利用者には言葉かけを工夫したり、時間をおいて誘導する等、利用者が入浴を楽しめるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や日中の状況に合わせて入眠を促している。添い寝やお茶の提供をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアプランの資料に記載している。また、チェック表にてすぐに確認が出来るようにしている。服薬漏れがないようにチェック表を作成して防いでいる。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日によって散歩、歌の時間を作り楽しめる支援を行っている。また、副菜づくりや出来る能力に応じて一緒にしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出をする際は誘うようにしている。本人が行きたいと希望すれば、可能な限り外出している。	天候や利用者の状態によるが散歩や買い物を兼ねたドライブ等を実施している。可能な限り本人の希望に沿って寿司屋やコンサートに行く等の工夫しながら外出支援をしている。また、弁当を持参して季節ごとの花見等も行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に合わせて管理していただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は手紙の代筆をしている。また、電話希望があればかけて、ゆっくり話せるように扉を閉めたりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りや置物や月毎に壁面を飾るなど落ち着いた環境になるようにしている。食堂、玄関には季節の花を生けたり、馴染みの音楽をかけたりしている。また、不快な音が出ないように注意している。	木の暖かみに満ちた広々とした空間で、利用者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。テレビや音楽などの大きすぎる不快な音もなく、換気も留意され、居心地よく過ごせるよう共有空間づくりに努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置く等している。共有部分は畳やソファ等でゆっくり過せる工夫をしている。食事やお茶の時間等はなじみの関係の利用者を同テーブルにし楽しみながら過せるようにしている。一人になりたい時は居室に戻れるように支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を配置したり、準備したりしている。入所時には使い慣れた物の持ち込みが出来る事を家族には伝え、家具や楽器を持ち込まれており、本人が安心できる出来る環境となっている。	居室は本人の使い慣れた家具、テレビ、趣味のキーボードなどが持ち込まれている。家族の写真や手紙なども飾られており、利用者が穏やかに過ごせるように工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが解らない方の為に解りやすいように入口に目立つように表示している。また、個別に食事のテーブルを作成して対応し、身体状況に合わせている。また、居室内を伝い歩き出来るように家具を置いている方もいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH独自の理念は作られていないが、理念に基づく運営方針があり、事業計画に部門目標として、地域との関わりを大切にして行く事を掲げて取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は、毎日の理念唱和や全体研修会での理念の説明を受けて、理念の理解に努めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族には、広報誌に掲載し、地域の方には、来園時見て頂けるように玄関入口に掲示している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・地域包括支援センター職員の出席もあり、その中で現状や事業計画での取り組み等を報告。頂いた意見は、GH会議で職員へ報告して、日々のケアに活かせるような取り組みをしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席があり、会議の中で頂いた意見は日々のケアに生かしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に、身体拘束の基本的行為を理解したうえで、身体拘束に係わるアンケートを職員より収集し、マニュアルの改訂を行い、身体拘束をしないケアに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、GH会議の中で資料などで再確認を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には、日常生活自立支援事業や成年後見制度については会議の中で、制度の説明は受けているが活用できるような支援にはいたっていない。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は重要事項説明を家族へ行い、不明な点の確認や不安を尋ねる様にしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、入居者も参加され入居者の意見を頂けるように工夫しているが、運営に反映出来るような意見や苦情は出ていない。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議の中で、意見を出せるような課題の提示の工夫をしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の活用により、職員の勤務状況や仕事に対する目標を把握し各職員の意識向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関しては、募集時点から性別や年齢などを理由に採用対象から排除していない。また、職員についても公休希望を聞くなどを行い、社会参加や自己実現が出来るよう配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権について振り返りを行うために、GH会議の中で資料にて確認を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での、新任研修・フォローアップ研修と、職員の段階に合わせて内部・外部の研修を実施している。また、資格取得の支援も行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着部会を活用して、他施設見学や部会が主催する研修に参加し交流の機会やサービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問、面接を実施。本人・家族・ケアマネージャーからの話を聴く機会を作って、本人との関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には施設見学をして頂き、施設での生活を送るうえで心配な事、意向を尋ねながら関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点でGHが満床であれば、ケアプランセンター等に相談する事を勧める場合もある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な範囲で職員は入居者と一緒に作業などを行う。その中で、しきたりや郷土料理などを習い、楽しむ事が出来る関係づくりに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告や電話などで入居者の状態を共有している。入居者に変化があれば家族の来園を依頼して入居者の精神的な支援をして頂いている。また、行事参加を呼びかけ同じ時間を楽しく過ごして頂ける工夫をしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居前の施設への訪問を支援しており、本人の馴染みの人との関係の継続に努めている。また、かかり付けの歯科受診などの支援を行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の馴染みの関係の把握を行い、居心地の良い環境作りに努めている。また、孤立している入居者に対しては、職員が介入をして他入居者との会話や活動を促している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業者に住み替えを行った入居者に対しては、本人の状況や生活歴、週刊等の情報提供に努めている。サービスを終了する際は、他サービスに繋げる支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との生活の中で、本人の思いが表現できるような会話を多く持つことや、ケース記録で情報を共有していこうの把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に、これまでの生活歴や習慣・嗜好を会話の中で把握している。また、センター方式やひもときシートを活用して家族や近親者より情報を得て、これまでの暮らしの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方はケース記録として残すように努めている。また、状態チェック表を記入することで心身の状態把握を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族へは介護に関する希望や要望を尋ね反映している。また、全職員からの意見を反映するために、事前に意見収集が出来る様に意見収集表を設置している。更に、GH会議でミニカンファを設定している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には、日中・夜間と毎日記録をおこなっており、日々の変化を情報共有している。その中での変化に対応できるよう、介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHだけではなく、併設施設デイを利用して社会性を維持できるようにカラオケ教室に参加するなどの支援に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	火災時の訓練の際に参加してもらったり、フラワーアレンジメントやカラオケのボランティアとの活動を楽しんでいる。民生委員にも来園して頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門医が常駐するため入所時等に説明しながらかかりつけ医としている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と協力しながら日常的に健康管理を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院者には定期的な面会に行き、情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、富の里重度化対応、看取りに関する指針を家族へ手渡し、説明を行っている。また、重度化した利用者の今後の対応をご家族、看護師、GH職員で話し合う場を設けた。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練している。救急法も研修があり、事故防止につながっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いの訓練は地域の方に知らせて見学を呼び掛けている。地域住民の協力が得られるように話し合いはしているが、訓練までは出来ていない。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人に分かりやすい言葉かけや、接遇の取り組みとして部署でのチェックをしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何時でも希望に沿うように意欲を引き出すように選択できるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員で流れを決めている事が多い。体調の悪い方を中心に健康維持できるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には馴染みの美容室に行ってもらっている。また、入浴時にカラーリングを行っている利用者もいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けは一緒に行っている。食事も職員と一緒にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好品の把握をしている。好みの飲み物を準備し摂取量を増やしている。食事は嚥下、咀嚼状態に合わせて検討・提供している。水分については、とろみをつけたり、ゼリーにしたりして提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいを実施している。会議の時など口腔ケアについての重要性に触れている。本人の状態に合わせて行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの方もポータブルトイレを使用するなどして可能な限りおむつやパットでない排泄を支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、人によっては歩くように支援している。また、体を動かすように働きかけている。ヨーグルト、ヤクルトを提供している。お腹が張ったりしていればマッサージしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	希望通りの入浴していただいている。夜間入浴は行っていないが、必要時は工夫している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や日中の状況に合わせて入眠を促している。添い寝やお茶の提供をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアプランの資料に記載している。また、チェック表にてすぐに確認が出来るようにしている。服薬漏れがないようにチェック表を作成して防いでいる。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日によって散歩、歌の時間を作り楽しめる支援を行っている。また、副菜づくりや出来る能力に応じて一緒にしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出のある際は誘うようにしている。本人が行きたいと希望すれば、可能な限り外出している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に合わせて管理していただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は手紙の代筆をしている。また、電話希望があればかけて、ゆっくり話せるように扉を閉めたりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂以外は取り入れていない物が多い。季節に合わせた飾りや置物や月毎に壁面を飾るなど落ち着いた環境になるようにしている。食堂、玄関には季節の花を生けたり馴染みの音楽をかけたりしている。また、不快な音が出ないように注意している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置く等設置している。共有部分は畳やソファ等でゆっくり過せる工夫をしている。食事やお茶の時間等はなじみの関係の利用者を同テーブルにし楽しみながら過せるようにしている。一人になりたい時は居室に戻れるように支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を配置したり、準備したりしている。入所時には使い慣れた物の持ち込みが出来る事を家族には伝え、家具や楽器を持ちこまれており、本人が安心できる出来る環境となっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが解らない方の為に解りやすいように入口に目立つように表示している。また、個別に食事のテーブルを作成して対応し、身体状況に合わせている。また、居室内を伝い歩き出来るように家具を置いている方もいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		